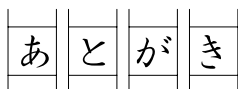


掲載広告主一覧

(学)近畿測量専門学校
(社)京都府測量設計業協会
(社)奈良県測量設計業協会
(社)和歌山県測量設計業協会

(社)大阪府測量設計業協会
(社)滋賀県測量設計技術協会
(社)兵庫県測量設計業協会



新年おめでとうございます。

新政権のもと、測量業界がどう変わろうとしているのか、いささか気になりますが、明るい年になる事を願わずにはられません。

先日、天保山に行ってきました。ご存じのとおり、天保山には二等三角点「天保山」があり、その冠字は『人』です。現点の記には、選点：明治44年4月20日、設置：同4月26日となっており、どちらも佐々木戸次郎氏が行っています。点の記をよく見ると履歴欄に明治44年移転、旧設置明治34年と書いてあるので、移転された事がわかります。

佐々木氏の本来の冠字は『坐』であり、最近読んだ本で、剣岳点の記で話題の芝崎芳太郎氏らとともに飛騨山脈周辺の三等三角点設置を担当した人であることを知りました。主として5万分1図槍ヶ岳に多く見られます（図中のⅢ△43点中26点）。

もともとの天保山三角点は、明治34年9月15日に

山本米三郎氏によって設置されました。既知点は、I△六甲山、天守台（廃点）、御影山（廃点）が使用されました。その時の天保山測標の心柱上面までの高さが5.7m、これで観測できたのですから、当時の大阪は見通しがかなり良かった事と思います。

元の位置を新・旧成果値から計算すると、現在地から方位208°17′.7、距離24.2mとなりますので、興味のある方は現地でご確認下さい。

設置から約10年を経て移転された理由は何だったのでしょうか。そのころの歴史を調べるため何度も図書館に足を運びましたが、結局理由を見つけれず、謎のままです。ご存じの方がいればいいのですが……。

時節柄、寒さはますます厳しくなります。新型インフルエンザの蔓延も心配です。皆さまくれぐれも気を抜かぬようご用心下さい。ご寄稿いただきました皆さまありがとうございました。

(雨宮)

編集委員

委員長 雨宮 秀雄（常任幹事）
副委員長 松岡 直武（常任幹事）
委員 康本 甲秀（兵庫県）
委員 布川 茂（滋賀県）
委員 寺尾 充（メーカー）

委員 塩見 幸雄（京都府）
委員 高田 吉次（大阪府）
委員 谷向 秀喜（和歌山県）
委員 松嶋 秀典（奈良県）
担当役員 今田 康治（副支部長）